

# 都中英研だより

## 第 64 号

東京都中学校英語教育研究会  
会 長 井 田 宗 宏  
(練馬区立豊玉中学校校長)

### 地区活動の紹介

## 国分寺市から全都へ発信

### ～小・中・高の連携～

国分寺市立第三中学校長 重松 靖

#### ◇市教研英語部の活動

国分寺市には5つの中学校があり、生徒たちは落ち着いた雰囲気の中でまじめに学習に取り組んでいる。

英語科の教員は16名、年4回部会を開き、内一回は輪番で研究授業を行っている。今年度は、第五中学校の山内晶子先生が、中間テスト前日の3年生というハンディを見事に克服し、生き生きとした授業を展開していただいた。

今年度は、新学習指導要領が全面実施され教科書も大改訂された。本市では、SunshineからNew Crownに代わったこともあり、第一中学校の相沢秀和先生を中心にNew Crown用の独自のワークシートを作成した。レッスンごとにゴールとなる言語活動を設け、そのゴールに向かって1時間ごとに言語活動を積み重ねていく、という構成になっている。

今後、このワークシートを全員で共有し、工夫・改善を加えながら、授業改善をさらに進めたい。

#### ◇小・中連携

市教研とは別に、平成19年度までALTの配置や情報交換を中心とした中学校AET運営委員会というものがあった。

平成20年度からは、市内に10校ある小学校の代表者10名を加え、計15名で英語教育推進委員会が組織された。月1回定例会を開き、2年間かけて小学校高学年用の「外国語活動指導計画」と「指導案集」を作成した。

それまで外国語活動を各校が手探り状態で進めていた小学校にとって、教材について情報交換したり、指導方法や具体的なアクティビティを他の小学校や中学校の教員から聞いたりする場ができたことは、大変心強い組織となった。

中学校の教員にとっては、小学校での外国語活動の内容や児童の様子を知ることができ、中学入学後の英語の授業に役立てることができるようになった。

現在、英語教育推進委員会はなくなり、小学校の全教員を対象にする外国語活動研修会のみが開かれているが、中学校の英語科教員が小学校で行う出前授業は多くの学校で行われている。

小学校での外国語活動が必修化され2年目を迎える今、小・中連携の重要性は以前にも増して高まっている。新たな連携を模索したい。

#### ◇中・高連携

本市には都立国分寺高校がある。その国分寺高校に昨年、達人セミナーで有名な谷口幸夫先生が異動されてきた。個人的に知っていたこともあり、市教研英語部の活動に様々な支援をしていただいている。

昨年度は、福島県双葉郡双葉町立双葉中学校の教員で、集団移転先である埼玉県加須市立騎西中学校に勤務していた松本涼一先生を紹介していただき、第三中学校の生徒を相手に模擬授業を披露してもらった。iPod等を活用し、映像や音楽を効果的に使う素晴らしい授業であった。3月には出前授業として、谷口先生自身が第三、第五中学校の卒業間近の3年生に授業を行った。まさに「達人セミナー」国分寺版である。

今年度は、「私たちが教えた生徒が高校でどのような授業を受けているのか知ろう!」ということになり、谷口先生の授業を全員で参観し、授業の後にはワークショップ形式での研修会もしていただいた。先生には前述の山内先生の研究授業も参観してもらい、その後の反省会(含アフター5)では英語教育談義に大いに花が咲いた。

昨年文部科学省は「国際共通語としての英語力向上のための5つの提言と具体的施策」をまとめ、英語力向上を、「教育界のみならずすべての分野に共通する喫緊かつ重要な課題」と位置づけた。

英語に触れる小学校、コミュニケーション能力の基礎を養う中学校、コミュニケーション能力を養う高等学校が、お互いを知り、連携しあうことが何よりも大切である。

本校の学区域で国分寺高校のすぐ近くに「富士本90度公園」という小さな公園がある。日本数学検定協会が算出した「東京の重心」である。その「東京のへそ」国分寺市が東京都の英語教育の先頭にたつ意気込みで、今後も活動したい。

## 夏休み語い指導ワークショップ

### 11年目のテーマ「語い指導～辞書指導を含めて～」

新学習指導要領で強調されている辞書指導を主なテーマとし、授業での辞書指導実践などの内容で夏のワークショップを行いました。毎夏、約150人が参加し、今年も159人が参加しました。その半数は若い先生方です。研究部ではそれを踏まえたワークショップを心がけ、各ワークショップ後に参加者と研究部員が共にBrainstormingをして話し合いました。参加者からの質問や意見も研究部の活動に活かしていこうと考えています。

### 各回の期日、会場、担当講師（研究部員）

#### \*は参加者の感想

#### 第1回 7月30日(月)

会場：大田区立田園調布中学校 参加者58人

##### 1. 溪内 明（千代田区立九段中等教育学校）

「1時間の授業で『いつ』辞書を引かせるか」

\*辞書をあえて引かず、教師のヒントで意味を類推させることも大事だと感じた。辞書の使用だけでなく、授業構成も非常に参考になった。

##### 2. 金子健次郎（大田区立田園調布中学校）

「『辞書を引くこと』の意味と方法」

\*辞書も、粘り強く引かせることで、やがて自立学習につながっていくと信じ、これからも指導していきます。

##### 3. 大貫 由季（練馬区立豊浜中学校）

「辞書指導の導入とNew Horizon 1を使った1学期の辞書指導実践」

\*アルファベットに慣れさせるために、アルファベットの導入の段階から辞書指導をすることが大切だとわかりました。

#### 第2回 8月1日(水)

会場：千代田区立九段中等教育学校参加者58人

##### 1. 関口 智（江戸川区立清新第一中学校）

「中学3年生を自立した学習者に育てる語い指導」

\*授業中に辞書を引く語の選び方がわかりました。

##### 2. 上尾栄美子（江戸川区立篠崎第二中学校）

「授業で行う辞書指導 - New Horizon 3年生 -」

\*辞書を引かせる宿題用のワークシートなど工夫いっぱい感動しました。私たちのグループでは、1年生の辞書指導で辞書は素晴らしいものだと生徒にイメージさせ、少しでも毎回引く機会を与えることが大切であると結論に至りました。私も辞書に親しんで英語が好きになったので生徒にもそういう経験をしてもらえるように今後努力します。

##### 3. 石井 亨（千代田区立九段中等教育学校）

「授業での語い指導…New Horizon 中学2年1学期」

\*1～3年の辞書指導で重点的に指導したい項目を考えることができ、とても役にたった。

#### 第3回 8月21日(火)

会場：品川区立荏原六中 参加者43人

##### 1. 前田 宏美（葛飾区立桜道中学校）

「TOTAL 2の単語で何を辞書で引かせるか考える」

\*辞書指導の意義、指導の留意点、引かせる語の選択の視点など、全般的に扱っていただき、辞書指導の基礎を確認することができました。



2. 江濱 悦子 (大田区立貝塚中学校)  
「日本文化説明のための語い指導…中学3年生」  
\* 日本文化の説明という、統合的な活動の中で辞書指導について考えることができました。活動全体の指導の流れを紹介していただき、勉強になりました。

3. 岡崎 伸一 (品川区立荏原第六中学校)  
「New Crown 1年で何を辞書で引かせるかを考える」  
\* 教科書の文の中で、どの語をどんな理由で調べさせるかを計画的に考え、授業を組み立てさせるかが大切だとわかりました。その語を

調べさせるにはきちんと理由があるということがわかりました。

### 今年度の研究部研究大会 2月22日(金)

今年度の研究テーマは辞書指導 (3)「効果の検証」です。部員が授業で行った辞書指導で、効果のあった実践例を教科書別にまとめてきました。大会ではそれを発表します。公開授業は部員の金子健次郎先生 (大田区立田園調布中学校) が行います。指導講師は田尻悟郎先生 (関西大) にお願ひしました。

(研究部)



## プロジェクトチーム部研修会

# 「新学習指導要領の目標達成へとつながる指導法の研究」

## ～小中連携の充実を通して～

8月17日(金)豊島区立明豊中学校にて夏季プロジェクトチーム部研修会を行った。講師として英語教育推進で著名な駒沢女子大学 人文学部国際文化学科 教授の太田洋先生を招聘した。今年度のプロジェクトチーム部のテーマである「新学習指導要領の目標達成へとつながる指導法の研究～小中連携の充実を通して～」に沿って、二時間半の講義をしていただいた。

### • inputの質と量の重要性

日常的に使用しているvery carefullyがなぜいけないのか？教師が詳しく説明してしまうのではなく、推理させることが大切である。曖昧さを推測することは、言語習得においては、大切なことである。inputの量と質を考え、英語に触れる機会を増やす。inputの例として、残り1分～3分でも教科書を活用して既習ページを何度も触れさせること、small talk、インタラクション等、授業の中でinputを増やす方が、英語力の向上は望める。

### • 指導方法の工夫

覚えて欲しい内容をrepeatさせるだけでなく、考える要素があることが大事である。また、Q&Aには、相手が答えを知っているという欠点がある。英語の活動にはそれぞれメリットとデメリットがあり、必要に応じて活動の内容を工夫していくことが大切である。継続できることを無理なく少しずつ行うことが必要である。

### • feedbackによる定着

様々なfeedbackを通して、自分のもっている英語力を使い、反応しようとする姿勢を育成できる。

上記が講義での主な内容であるが、講義だけでなく数回グループワークを行い、各学校での取組を討議→発表し、様々な取組をshareすることができた。夏季休業中ではあったが、62名もの多数の参加者があり、二学期に向けて授業改善に繋がる有意義な時間となった。また、サブタイトルのように小中連携の充実には、中学校の英語教育の役割を明確にし、一時間一時間の授業を充実させていくことが大切であると再認識できた研修会であった。(プロジェクトチーム部)

## Teachers' Summer Workshop 2012

今年度のサマーワークショップは、平成24年8月21日(火)に、千代田区立九段中等教育学校を会場として開催された。講師は、国分寺市立第一中学校 本多光三教諭、小平市立小平第一中学校 大竹希依子教諭、埼玉県杉戸町立第三小学校 川村光一教頭をお願いした。今年度も、午前の部の講師は、教師道場2年目の先生方をお願いしている。本多教諭と大竹教諭は、教師道場で学んでいることに基づいて、実践報告をした。

本多教諭は、オーラルイントロダクションについて、デモンストレーションを交えて、わかりやすく説明して下さった。良いオーラルイントロダクションのポイントやネタとして使えるサイトなど、授業にすぐに生かせるアイデアが盛り込まれていた。これまで行っていたオーラルイントロダクションを振り返るいい機会になったことと思う。

大竹教諭は、「GOALを見据えた授業を目指して」というテーマで発表した。Communicative Language Teaching の視点に立った授業を展開し、具体的な生徒のGOALをイメージした実践例を報告して下さった。授業の組み立てだけでなく、指導計画を作成する上でも、参考になるポイントが数多くあった。

川村教頭は、「確実にあなたの授業力をアップさせる指導法」というテーマで、生徒に興味・関心を持たせ、4技能の力をバランスよく伸ばすためのさまざまな方法について教えて下さった。ワークショップ形式で、「トレジャー・ハンティング」「弾丸インプット」などのやり方を、参加者が生徒になって学ぶことができた。

また、ご自分が先生になったきっかけや、英語教育に寄せる情熱についても話して下さった。

参加者も、川村先生の話聞き、英語教育への思いを新たにしたことだろう。

事業部主催のサマーワークショップでは、昨年度から、160名収容できる千代田区立九段中等教育学校の視聴覚室をお借りして実施している。

今年度は100名を超える参加者があった。事前の申し込みが必要なくなったので、これまでのように、参加を希望している方の何名かにお断りをするのがなく、主催者としてはよかったと思う。千代田区立九段中等教育学校の校長先生をはじめ、教職員の方々に、この場を借りてお礼を申し上げる。

サマーワークショップは、実践にすぐに生かせる内容と、それを裏付ける理論とともに学ぶ場として開催している。そして、「楽しくて力がつく授業」を多くの先生方に実践していただきたいと願っている。今年度のサマーワークショップが、参加した先生方の授業力向上につながり、生徒の英語力や英語学習への意欲の向上につながることを期待している。  
(事業部)



### 編集後記

「都中英研だより 第64号」をお送りいたします。今回、地区活動のご紹介では国分寺市の取組を取り上げました。また、今年度前半に中英研各部で実施しました研修会等についてご報告させていただきました。なお、年度末に「中英研会報」をお送りするため、現在、編集を進めております。ご期待ください。

本誌に関するお問い合わせ先：杉並区立井草中学校長 池田 武 男 (中英研出版部長)  
TEL 03-3390-3144 FAX 03-3390-5571